

## Ⅷ 久喜市立のぞみ園

令和4年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

### 1 実施事業

#### (1) 定員と現員

令和5.3.31現在

事業名	定員	現員
児童発達支援	定員10名	11名(男児6名、女児5名)

<入退園等>

入園5名(4月1日 男児4名 女児1名)

卒園4名(男児1名:就学先 久喜市立菖蒲東小学校 特別支援学級

女児3名:就学先 埼玉県立久喜特別支援学校1名、

久喜市立江面小学校 特別支援学級2名)

退園2名(4月30日付 男児1名 保育園への移行のため

1月31日付 男児1名 " )

<併用の状況>

7名 幼稚園・保育園との併用

(久喜市立中央幼稚園、久喜市立すみれ保育園、長龍寺幼稚園)

#### (2) 利用者の状況

##### ア 年齢構成

2歳児 1名 3歳児 4名 4歳児 2名 5歳児 4名

##### イ 障害者手帳の所持状況

療育 (A) 1名、B 1名、C 3名

身体 1級 2名

(療育、身体手帳の両方所持 1名)

なし 5名

##### ウ 利用率

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開園日数	20	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	22	241日
延利用者数	131	131	147	148	140	124	123	123	111	116	120	125	1,539人
利用率	65.5	68.9	66.8	74.0	70.0	62.0	61.5	61.5	55.5	61.1	63.2	56.8	63.9%

### 2 重点実施事項

#### (1) 専門的な知識や技術の習得

ア 発達障害児の支援について、動画視聴や発達障害の専門誌の購読をしました。支援をして分からないことや参考になる事例等を学ぶことができ、その都度知らないことや分からないことを調べる習慣が出来ました。専門的な知識や技術を学んでいますが、それを支援にいかしていけるようにすることが今後の課題です。

イ ペアレントトレーニングについては、動画で学びました。また、保護者向けに「ほめること」「トイレトレーニングについて」等のテーマで意見交換を行う

機会を設けました。保護者同士で困っていることを共有したり、保護者の方が自分の育児を振り返ってみる良い機会となったようです。

## (2) 活動内容の見直し

- ア 子どもが遊びにのりやすく集中しやすいように、個別の目標やねらいが同じ子どものグループを作り、遊ぶ機会を定期的に設けました。ことばを相手に伝える「伝言ゲーム」やルールを守って遊ぶ「椅子取りゲーム」「だるまさんがころんだ」「しっぽとりゲーム」等を楽しみながら行いました。遊びの中で子ども自身の新たな課題を見つけることもありました。遊びのバリエーションを増やしたり、遊びの内容についても発達の段階に合わせながら今後も行っていきたいと思います。
- イ 二択の活動を示して好きな遊びを選んで参加してもらおう等活動の工夫をしました。特に、選択活動では選びたくてもなかなか自分の意志が出せない子、遊びを選びたいけど遊びをイメージすることが難しい子等、選択をする時にも様々な様子が見られました。今後も活動や遊びの方法を考え、子ども達が自発的に楽しく参加できる遊びを提供していきたいと思います。

## 3 具体的取組み

### (1) 利用者支援

#### ア 個別支援

- (ア) 基本的な生活習慣の行い方について、子どもの分かりやすい方法で行いました。職員が手本を見せたり、友達にお手本を見せてもらったり試行錯誤をしながら伝えていきました。少しずつ自分で行う意欲を見せてくれるようになったり、上手に自分でできるようになった子も多くいました。
- (イ) 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査を用いて子どものアセスメントを行いました。子どもの発達や次の課題が分かりやすく、支援の指標となりました。
- (ウ) タブレットを利用した子どもの支援  
タブレット（アプリ）を利用して、個別支援を行いました。タブレットは子どもがとても大好きなツールなので、誘うとすぐに取り組んでくれます。「追視」や「数字」「なぞり書き」などを目的にして、タブレットを使って楽しく取り組みました。集中して取り組んでくれる分、長時間の使用はブルーライトによる目の影響も心配されるので、少しずつ時間を決めて取り組みたいと思います。

#### イ 集団生活に適応する力を育てる

- (ア) 子ども達に伝えることが分かりやすいように、写真、絵、動画などを使用したり、ズボンや靴を履く動作を少しずつスモールステップで一緒に行いました。習得してきたら次のステップへ進み、無理なく動作や習慣を身につけることができました。
- (イ) おもちゃの貸し借りや、友達に伝えたいけれど自分からは上手く伝えられない、というような場面では、職員が子ども自身の気持ちを言語化して伝えながら仲介をしました。職員が友達役になってやりとりの再現をすることもありました。人と関わる楽しさを少しずつ感じていけるように今後も支援していきたいと思います。

#### ウ 療育専門指導

定期的な療育の訪問指導を行いました。指導者と情報交換を行い、子どもの発達についての情報を共有しました。また、指導者からのアドバイスを参考にし、日々の支援を行いました。

#### エ 家族支援

- (ア) 就学支援として、先輩保護者と就学を控えた子どもの保護者との座談会を行いました。学校の情報や就学までに準備しておくことなど様々な就学に関する情報を得ることができ、保護者にとって良い機会となったようでした。
- (イ) 送迎時には保護者に子どもの様子を伝えてコミュニケーションを図ったり、保護者の相談ごとには面談の機会を設けて相談に応じました。

### (2) 人材育成

- ア 発達支援の外部研修には参加できませんでしたが、動画の視聴をして支援の方法などを学びました。動画の視聴のみだと限りがあるため、今後外部の研修の受講をしていきたいと思えます。
- イ 動画で学んだことの感想やどのようなことを学んだか、現場に取り入れるとしたらどのような場面で参考にしたいかなどを伝え合って、実際の支援に繋げることができました。

### (3) リスク管理

- ア 保護者へ各災害時のマニュアルや対応の仕方について説明を行いました。避難訓練を行っていることは知っているけれど、具体的にどのような災害の想定でどのように行っているかは知らない方が多かったので、良い機会となりました。また、散歩に行った時や園内でも所在の確認を行っていることを保護者に伝えました。保護者の安心に繋がるように、今後も定期的に伝えていきたいと思えます。
- イ 子ども達が活動する場所や使用する物品の安全点検を定期的に行いました。必要に応じて補修や取り替えを行い、安全に子ども達が過ごせるように努めました。

### (4) 感染症防止対策

- ア 子どもが共有する玩具や遊具は細目に消毒、洗浄をしました。ビーズ、ボールプールのボールなど小さくて大量にあるものも多いため、遊ぶ前にその都度手指の消毒をするようにしました。遊ぶ前に子どもから「消毒して」と手を出すことが習慣づいてきました。
- イ 子ども達にはコロナ感染症についてできるだけ分かりやすく伝えてはいましたが、イメージして理解することが少々難しかったようです。マスクの着用についてはほぼ全員がすることができるようになりました。  
新型コロナウイルス感染予防の基本的な対策と以上の対策をしていましたが、陽性者が発出しました。(5月1名、7月2名、9月1名、11月1名、1月1名)家庭内感染の陽性者が多く、園内で広がることはありませんでした。感染対策を行っていたため、インフルエンザの罹患者もいませんでした。今後も

コロナの感染状況を把握しながら対策を行っていきたいと思います。

## (5) 地域交流

### ア 地域の関係機関との連携

- (ア) 保健センターや久喜市の子ども未来課、支援センター等の関係機関と連携を取り、個々の子どもの情報を共有しました。また、併用をしている子どもが通園している園とは定期的に訪問や電話で連絡を取り合い連携に努めたり、就学先の学校との情報共有も行いました。
- (イ) 自立支援協議会の子ども部会へ参加し、市内の児発や放デイなど子どもが通所する事業所の現状や課題などを把握し、のぞみ園の現状と照らし合わせて考えることができました。

## (6) 事業運営（収益の向上）

### ア 空席のカバー

併用をする子どもが利用しない日を有効活用できるよう、定員より多く受け入れを行いました。家庭の都合による欠席をする方が多かったこと等により、利用率は63%となってしまいました。利用を開始したばかりで利用日数がまだ少ない子どももいるため、子どもの発達状況や安全面を見て保護者と利用日数について相談しながら利用日を増やしていき、収益の向上に繋がれるように努めていきたいと思います。

### イ のぞみ園のアピール

主にSNSで行事や普段の園の様子を発信しました。パンフレットには、SNSをしていることの情報を掲載していないため、パンフレットにその情報を掲載して、より多くの方に園の情報を伝えられるようにしていきたいと思います。

## (7) その他

建物や備品の老朽化や不具合が出てきて修繕、交換する頻度が多くなってきました。引き続き日常の点検を行いながら安全に子ども達が過ごせるように管理をしていきたいと思います。